

## 大雪山「雪壁雪渓」の経年変化

## Variation of Yukikabe Snow-Patch in Daisetsu Mts., Hokkaido

# 高橋 修平 [1]; 亀田 貴雄 [2]

# Shuhei Takahashi[1]; Takao Kameda[2]

[1] 北見工大; [2] 北見工大・社会環境

[1] Kitami Institute of Technology; [2] Kitami Institute of Technology

北海道・大雪山・「雪壁雪渓」の規模調査は1964年から、北海道大学低温科学研究所グループにより行われ、約10年の中断後、1989年からは北見工業大学雪氷研究グループによって継続されている。「雪壁雪渓」は高根が原の東側、南東斜面に位置し、冬期の西風による地吹雪輸送による大量の吹きだまりによって涵養され、夏の終わりまで積雪が残って越年している。

雪渓の面積は融雪期末期、通常9月末に測量によって計測されている。また最近はモーターグライダーによる航空写真による観測も併用している。

観測期間中での最大面積は1976年の2600 m<sup>2</sup>であり、最小面積は1991年の130 m<sup>2</sup>であった。面積の年々変化の特徴は、大面積期間と小面積期間の間でフリップフロップ型のスイッチ変化をしていることである。大面積期間のトレンドおよび小面積期間のトレンドは気候変化を示しているようであるが、フリップフロップ型変化の原因は別にあると思われ、その要因を考察していきたい。

